

全力で頑張ります



全国農業委員会長大会で、参議院農林水産委員長として挨拶(5月28日)

在庫の圧縮こそ 米価引き上げの力

三つは、今年の米の価格です。出来秋の夏に、200万トを超える在庫があると、19年、22年、26年と米価が大きく下がったと同じ事が起こりかねません。

米価低迷は、JAが概算金を低く設定したからだとする意見がありますが、それは違います。在庫があることで、米の取引価格が下がっていたから、概算金も低く設定せざるを得なかったのです。まず、この在庫を減らさなければ米価

は上がりません。しかし残念ながら、今年のように米価が下がっているても、米の需要は伸びていません。だから今、飼料用米の作付拡大等で需給を改善し、何としても今年は米価を上昇させなければならぬのです。JAグループ



萬歳会長出席のもと、参議院農業・農協研究会を開催(2月12日)

プも農水省も全力です。水田のフル活用で、不足する麦や大豆や飼料用米を作付する、そのためには必要な政策や助成金を維持し充実させる、また、必要な土地改良や排水等の基盤整備対策を充実させる。私は、これらのことに全力を挙げます。

JA改革をめぐる 悔しい思い

自民党内のJA改革の議論は、JA中央会から監査事業を分離し、JA全中是一般社団法人に、JA全国監査機構はJA系の監査法人へと独立させられ、准組合員制度の問題は5年後に先送り、県段階のJA中央会は連合会として残すことで、結論に至りました。

規制改革会議や政府は、JAの自由な活動を統制しているとして、JA全中をどうしても農協法から外したかったようです。准組合員問題と絡めて争点化し、その選択を迫るとい

う政治的な駆け引きで、議論は一気に収束されてしまいました。

私には、一番の当事者としてJA改革問題に取り組んできながら、納得のいく決着にたどり着けなかったという歯がゆさ、後悔の念があります。かつては農林部会長、今は部会長代理ではあるものの、直接の当事者ということであ人数のインナー会議という形で党と政府との議論の場に参画させてもらえなかったこともあります。

しかし、その分、参議院の農業・農協研究会の事務局長として、常時20〜30人の参議院議員が出席した研究会の議論を大事にして、この間17回にもわたる会を開き、参議院としての取り組みを行いました。

自民党内の議論の決着後、国会における法案の審議が衆議院から始まりましたが、法案の附則の一部が修正され、「関係者の意識の『啓発』を図る」という文言が追加されたことに

農家の不安払拭へ



自民党大会の前日イベントで、国産農産物の消費拡大をPR(3月7日)



参議院本会議で、農林水産委員長として都市農業振興基本法案の趣旨説明(4月9日)

自己改革の徹底へ JA、頑張ろう

しかし、衆議院の附帯決議に盛り込まれた「地域の重要なインフラとして農協が果たしている役割を十分踏まえること」は、大切な決議です。これに基づく政府の具体的な対応を追及していきたいと思

今回の改革は、序章の幕を切っただけで、この後、事業分離や株式会社化への動き、さらには米国の金融資本による攻勢は、さらに強まると想定されます。よほどの決意で、5年後を目指さなければならぬのです。

ともかく、JAを攻撃する勢力に口実を与えない取り組みが必要です。「農業」協同組合として説明ができる力強いJAづくりと、自己改革の実績を作り上げねばなりません。

そのためには、JAグループが、地域で農業を営む組合員農家の要望に応え、農業生産と販売・購買の事業

で役割を発揮すること、そして地域の非農家の准組合員の要望にも応える機能を着実に発揮し、地域になくてはならない社会的な組織としての存在価値を高めることです。

全国には、すでにこうした役割を担っているJAはたくさんあります。全国のJAで、まさに地域の特性に応じて、こうしたことをしっかりとやるうではありませんか。

そして、JA中央会が、これまでと同様、きちんと機能発揮できる体制を、JAや連合会の協力で作り上げねばなりません。また、監査機構を公認会計士法に基づく監査法人にしっかりと作り上げ、全国のJAに選択してもらいうようにしなければなりません。

は、驚きました。「啓発」という言葉は、国語辞典によると「専門家としての観点から一般の人が看過しがちな問題点について知識を与えること」となっています。この言葉に私は危惧を感じます。JAの組合員も役員もそれほど教え導か

ねばならない遅れた存在だと言うのでしょうか。今回の改正案が持つ狙いをいみじくも示すものであると思います。

それなら、参議院の委員長として、法案の再修正に力を示せと言われるのではないかと思いますが、衆議